

序文

サルコイドーシスは全身性の肉芽腫性疾患であり、ほぼ全ての臓器・組織で病巣を形成するため多くの科の対象となる。病変は、肺、リンパ節、眼、皮膚に多く認められるが、心臓、神経、筋、骨、消化管、外分泌腺、腹腔内臓器、耳鼻咽喉科領域など多くの臓器に及ぶ。さらに、他疾患との鑑別が困難な慢性疼痛・慢性疲労などの臓器非特異的な全身症状が加わることもあり、その臨床像は極めて「多彩」である。また、各々の病変は短期間で自然に改善するものから、慢性化するもの、悪化して十分な治療を必要とするもの、さらに治療に抵抗して難治化するものまであり、その臨床経過は極めて「多様」である。治療薬は副腎皮質ステロイドホルモン薬が主体となり免疫抑制薬の使用が必要なこともあるものの、それらを開始するタイミング、量、使用期間には十分なエビデンスがないのが現状である。ガイドラインとして統一した治療方法を推奨することが難しい疾患であるといえよう。

本疾患は全身性多臓器性疾患であるが、呼吸器病変の合併頻度が圧倒的に高いために厚労省の指定難病としても歴史的に呼吸器疾患に分類されており、多くの患者が一般内科や呼吸器内科を受診して、呼吸器内科医が診療の中心となることが多い。仮に皮膚や骨・関節を主病変とする患者であっても、全身ステロイド治療や他臓器の管理を行うのは、やはり呼吸器内科医を中心とした内科医であるべきであろう。よって本症は、いわば「呼吸器内科医を中心とした内科医が主治医となって、他の専門家の意見を参考にしながら診療していくべき疾患である」といえる。しかしながら、呼吸器疾患全体からみると呼吸器内科医が本症の患者に遭遇する機会が少ないために、臨床の現場で適切な対応がなされていないことが多いようにみうけられる。

この「サルコイドーシス診療の手引き 2018」は、そのような状況を鑑みて、本症の診療の主治医となるべき呼吸器内科医あるいは一般内科医を主な読者と想定して作成した。また、その他の科の医師の疑問にも答えられるように各論の部分では配慮した。

本稿は前半を「概要」、後半を「解説」として、「概要」に本症診療のエッセンスをもりこみ、その最後に日常診療で必要とされる CQ&A をおいた。後半の「解説」では詳しい解説を試みた。作成にあたってはできるだけ多くの論文を参考にしたが、元来エビデンスレベルの高い治療研究報告は乏しく、民族・人種によって臨床像が大きく異なることが知られている疾病であるため、他の国の報告をそのままこの手引きに適応するわけにはいかなかった。よって、その記述のほとんどすべてがわが国で豊富な診療経験を有する専門家たちの意見の集約である。日本のサルコイドーシスという、特異な独自性があり、多彩かつ多様であり、統一した治療方針の推奨が難しい疾患の診療の手引きを作成するためには、この方法が最良であると信じるものである。

本稿は、サルコイドーシスの診療に携わる医療者、とくに呼吸器内科医、一般内科医の実

臨床に役立つ内容をめざして作成した。この診療の手引きによって、ひとりでも多くのサルコイドーシスの患者さんがよりよい診療がうけられるようになれば幸いである。

2018年12月

日本サルコイドーシス／肉芽種性疾患学会
サルコイドーシス診療の手引き作成委員会

サルコイドーシス診療の手引き作成委員会

委員長

山口 哲生
新宿海上ビル診療所

副委員長

四十坊 典晴
JR札幌病院
呼吸器内科

山口 悦郎
愛知医科大学
呼吸器内科

幹事

今野 哲
北海道大学病院
第1内科

玉田 勉
東北大学病院
感染症 呼吸器内科

森 由弘
KKR高松病院
呼吸器・アレルギー内科

乾 直輝
浜松医科大学
臨床薬理学講座

委員

伊崎 誠一
埼玉医科大学総合医療センター
皮膚科

石原 麻美
横浜市立大学医学部
眼科

井上 義一
国立病院機構近畿中央胸部疾患センター
臨床研究センター

海老名 雅仁
東北薬科大学病院
呼吸器センター

岡本 祐之
関西医科大学
皮膚科学講座

草野 研吾
岡山大学病院
循環器内科

後藤 浩
東京医科大学
眼科学講座

杉山 幸比古
練馬光が丘病院
呼吸器内科

鈴木 榮一
新潟大学医歯学総合病院

須田 隆文
浜松医科大学医学部附属病院
第2内科

寺崎 文生
大阪医科大学
教育機構・循環器内科

長井 苑子
京都健康管理研究会 中央診療所

西山 和利
北里大学医学部
神経内科学

本間 栄
東邦大学医療センター大森病院
呼吸器内科

宮崎 英士
大分大学医学部
地域医療学センター

森本 紳一郎
総合青山病院
循環器内科

矢崎 善一
佐久総合病院
循環器科

横山 和正
順天堂大学
神経学講座

顧問

工藤 翔二
結核予防会
理事長

西村 正治
北海道大学医学部
第一内科

執筆

赤川 志のぶ
国立病院機構 東京病院
内科

吾妻 安良太
日本医科大学
呼吸器内科学講座

粟野 暢康
日本赤十字社医療センター
呼吸器内科

石井 芳樹
獨協医科大学
呼吸器・アレルギー内科

石原 麻美
横浜市立大学医学部
眼科

稲瀬 直彦
東京医科歯科大学医学附属病院
呼吸器内科

乾 直輝
浜松医科大学
臨床薬理学講座

井上 義一
国立病院機構近畿中央胸部疾患センター
臨床研究センター

江石 義信
東京医科歯科大学医学部付属病院
病理部

海老名 雅仁
東北薬科大学病院
呼吸器センター

大道 光秀
大道内科・呼吸器科クリニック

岡本 祐之
関西医科大学
皮膚科学講座

片岡 幹男
岡山大学大学院
保健学研究科検査技術科学分野

金澤 伸雄
和歌山県立医科大学
皮膚科学講座

鎌田 芳則
北村山公立病院
腎臓内科

小林 英夫
防衛医科大学校
呼吸器内科

今野 哲
北海道大学病院
第1内科

齋藤 弘明
東京医科歯科大学医学附属病院
呼吸器内科

酒井 文和
埼玉医科大学国際医療センター
画像診断科

澤幡 美千瑠
自治医科大学
呼吸器内科

四十坊 典晴
JR札幌病院
呼吸器内科

杉崎 勝教
大分記念病院
呼吸器内科

杉山 幸比古
練馬光が丘病院
呼吸器内科

須田 隆文
浜松医科大学医学部附属病院
第2内科

武村 民子
日本赤十字社医療センター
病理部

玉田 勉
東北大学病院
感染症 呼吸器内科

寺崎 文生
大阪医科大学
教育機構・循環器内科

徳田 均
JCHO東京山手メディカルセンター
呼吸器内科

長井 苑子
京都健康管理研究会 中央診療所

奈良 正之
東北大学病院
臨床研究推進センター

西山 和利
北里大学医学部
神経内科学

根本 健司
国立病院機構 茨城東病院
呼吸器内科

服部 健史
北海道医療センター
呼吸器内科

濱田 邦夫
市立千歳市民病院
内科

濱田 直樹
九州大学大学院医学研究院附属
胸部疾患研究施設

半田 知宏
京都大学医学部附属病院
呼吸器内科

藤本 圭作
信州大学医学部
内科学第一講座

本間 栄
東邦大学医療センター大森病院
呼吸器内科

松井 祥子
富山大学医学部
第一内科

宮崎 英士
大分大学医学部
地域医療学センター

宮崎 泰成
東京医科歯科大学医学部
呼吸器内科

森 由弘
国家公務員共済組合連合会高松病院
呼吸器内科

山口 悦郎
愛知医科大学
呼吸器・アレルギー内科

山口 哲生
新宿海上ビル診療所

渡辺 憲太郎
福岡大学医学部
呼吸器内科

(50音順, 敬称略)